みやこ町歴史民俗博物館

博物館だより

MIYAKO TOWN DIGITAL MUSEUM
www.miyako-museum.jp

No.113

平成28年4月1日
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL0930－33－4666
FAX0930－33－4667

この春は博物館へ！

昨秋11月にリニューアルオープンした博物館は、新しい見どころ・楽しみ方が満載の施設に生まれ変わりました。そんな博物館を一層楽しむための方法をみなさんにご紹介します！

その① 漱石コレクションを観る

今年は文豪・夏目漱石の没後百年を迎えることから「漱石ブーム」の到来が予感されています。そんな漱石ゆかりの貴重なコレクションが博物館にあるのをご存知ですか？みやこ町出身で漱石門下の独文学者・小宮豊隆が残した漱石コレクションがそれです。

漱石の手紙や書画、名作ゆかりの資料など、よそでは見られない貴重な資料がそろっています。ぜひご覧ください。

○**主な漱石ゆかりの資料**
- 木屑録（正岡子規が添削した学生時の紀行漢詩文集）
- 肖像写真（旧千円札肖像）
- 「吾輩は猫である」紹介記事にちなむ自画像（左写真）

その② 博物館友の会へ入会する

みやこ町歴史民俗博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに、講演会やバスハイク・歴史たんけんウォークなど、さまざまなイベントや学習会を行っています。関心のある方なら、どなたでもお気軽に参加いただけます。ぜひご入会下さい。

♪**入会の方法**
窓口で会費を納めてください。

♪**年間会費**
個人会員　3000円
家族会員　1名　2000円

♪**お問い合わせ先**
みやこ町歴史民俗博物館内友の会事務局
TEL0930・33・4666

その③ 歴史講座で学ぶ

歴史講座は郷土ゆかりの資料等を通してふるさとと文化の再発見を目指す講座で、関心のある方ならどなたでも参加いただけます。お気軽に受講ください！

なお、受講に際し毎回資料代実費200円（見学会は別途実費）が必要ですのでご了解下さい。

○**4月の歴史講座**
【漢詩紀行講座】4月2日(土) 9時30分〜
【古典かな講座】4月16日(土) 9時30分〜
【金曜古文書講座】4月22日(金) 10時00分〜
【みやこ学講座】4月23日(土) 10時00分〜
【古文書講座】4月30日(土) 10時00分〜
※日程等変更となる場合があります。

2・3月の業務日誌から

2月28日(日)、豊前国分寺跡公園で三重塔まつりが開かれ、塔の前で少年少女俳句大会の表彰式が行われました。30年の節目の大会に1万句を超える応募があり、盛況な大会となりました。

▲三重塔前で入賞者そろっての記念撮影

3月6日(日)、中央公民館で歴史文化カレッジ「筑前博多独楽」公演会が行われました。日本の曲独楽のルーツとされる伝統の技が披露され、仕掛けのない熟練の技に参加者は驚きの連続でした。

▲博多独楽究極の技「縒り独楽の真剣刃渡り」

3月10日(木)、県教委の県内中世城館調査委員会の皆さんが犀川木井馬場の神楽山城跡を訪れました。委員の皆さんは小規模ながら複雑に発達した神楽山城の構造に関心を高めていました。

▲城内の曲輪や堀切（左の斜面）を踏査する調査員

3月13日(日)、博物館友の会と共催して、山口県萩市を訪問する博物館・文化財研修会を行いました。世界遺産ともなった「維新のふるさと」萩の城下町のたたずまいに、歴史の面影が偲ばれました。

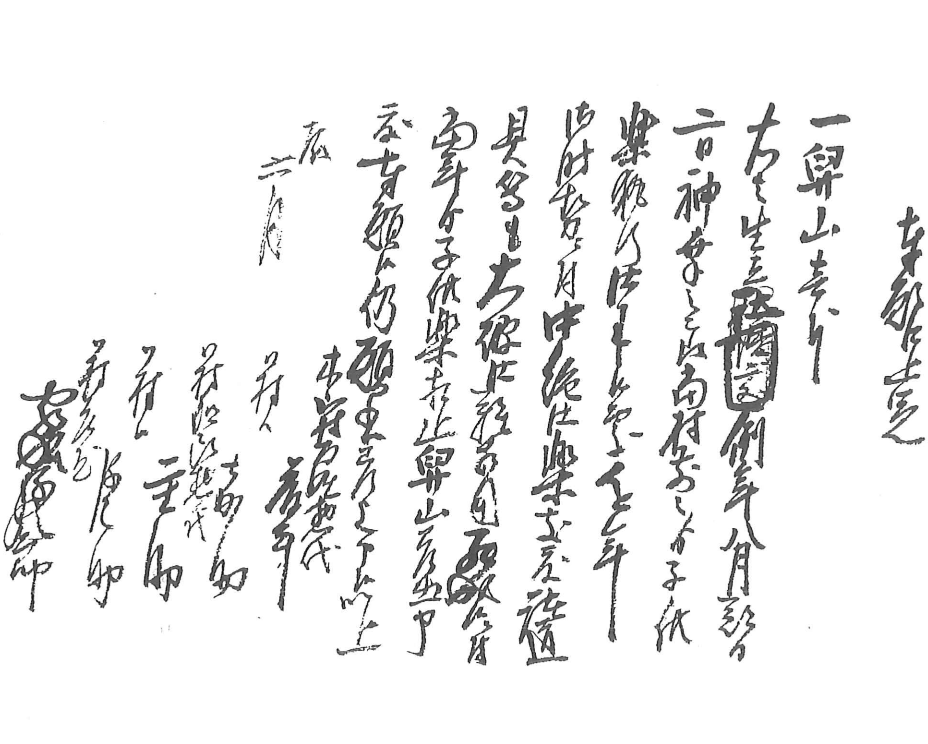
▲毛利36万石の象徴「北の総門」前で記念撮影

みやこの歴史発見伝86

古文書が語る村の生活と文化　22

生立八幡宮
八朔神幸と明治維新

【史料】



（長井手永大庄屋　慶応四年（明治元年）日記　六月二十二日条）

舁き山の奉納願い

上に掲げた【史料】は、慶応四年（明治元年・一八六八）六月に、仲津郡木山村（現みやこ町犀川木山）の村人代表四名と庄屋が連名で、香春小笠原藩（旧小倉藩、後に豊津藩）に提出した願書です。解読文は次のとおり。

【解読文】

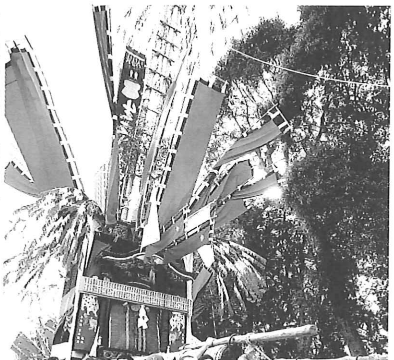
奉願口上覚

一、舁山壱本

右者生立社（八幡宮）例年八月朔日・二日神幸之節、当村前々ゟ子供楽執行仕来候処、近年御時勢ニ付中絶仕、楽支度諸道具等も大破仕難相用罷成候ニ付、当年ゟ子供楽相止、舁山差出申度奉願候、仍願書差上申候、以上

辰六月　木山村百姓惣代　藤平
同村同　嘉助
同村組頭惣代　重助
同村同　弥之助
同村庄屋　家成弥八郎

毎年八月朔日・二日に行われる生立八幡宮の例祭について、木山村が、これまで奉納してきた子供楽を止め、今後は舁き山を奉納したい、と願い出たのでした。



▲生立八幡宮神幸祭　山笠行事（福岡県指定文化財）

氏子村の奉納

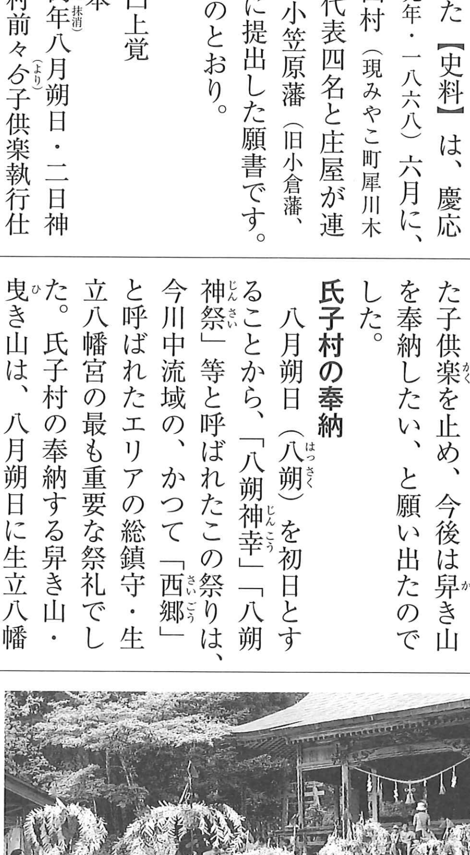
八月朔日（八朔）を初日とすることから、「八朔神幸」「八朔神祭」等と呼ばれたこの祭りは、今川中流域の、かつて「西郷」と呼ばれたエリアの総鎮守・生立八幡宮の最も重要な祭礼でした。氏子村の奉納する舁き山・曳き山は、八月朔日に生立八幡宮前に集結し、二日に各村へ還御するのが例でした。

ただ、氏子村が全て舁き山・曳き山を奉納していた訳ではありません。【史料】にあるように、生立八幡宮の所在する木山村は、子供楽（楽は楽打ちともいい、胸につけた太鼓を打って災厄退散を祈る群踊）を奉納していました。

また、例えば久富村（現みやこ町犀川久富）は、笠鉾と大幟、それに連歌を奉納していました（長井手永大庄屋・慶応四年日記七月十日条）。

チャンス到来

上掲【史料】の中で「近年御時勢ニ付中絶」とあるのは、長州征討の影響で、過去三年間（慶応元～三年）、八朔の神幸が出来なかった事を指しています。【史料】には、その間に子供楽の道具が「大破」とありますが、果たして本当でしょうか。もしかしたら、幕末維新期の混乱を、旧習を変えるチャンスと見た方便だったのかもしれません。木山村と時を同じくして、久富村も、柴山（榊を立てた舁き山）の奉納願いを藩に提出し、両村ともに許可されました（同前史料七月五日条など）。



▲豊国楽（みやこ町犀川下伊良原・町指定文化財）

現在の姿

生立八幡宮の神幸祭は、明治十年代から実施月が五月に変わるなど、大きく変遷しながらも、豊穣を祈る祭りとして今も大切に続けられています。また、幕末まで、木山村が伝承していた子供楽は、仲津郡下伊良原村（現みやこ町犀川下伊良原）に伝授・譲渡され、「豊国楽」の名で今に伝えられています。

（川本英紀）

長井手永大庄屋日記（永井文書）は九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門蔵